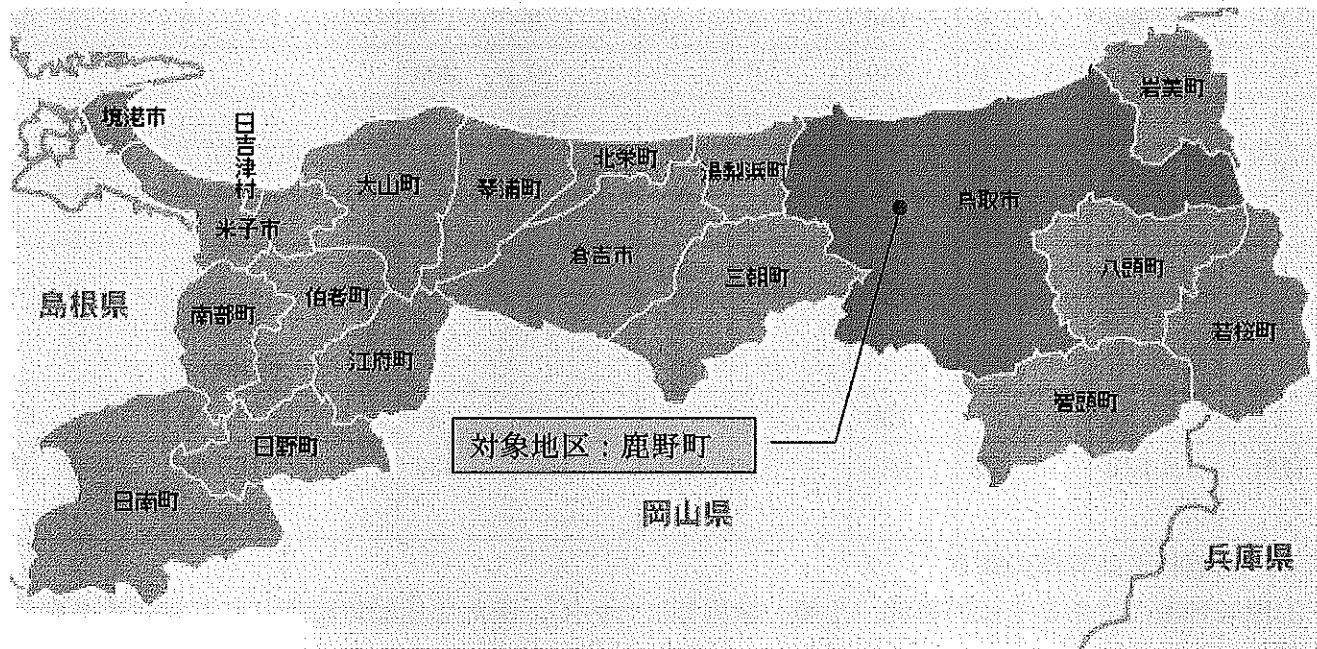


プラン名：未来につなぐ鹿野町農業振興プラン

平成25年2月5日

- 1 プラン作成主体名 鳥取市
- 2 区分（対象地区） 旧村地域（鳥取市鹿野町）



3 対象地区の現状

(1) 農業の概況

鳥取市鹿野町は面積 52.77 ㎏でその内 80%が山林である。南の鷲峰山などに源をもつ河内川を中心に小平地が開け、水田畑地となっている。人口は 4,141 人（平成 24 年 3 月末時点）であり、近年人口は緩やかに減少傾向にある。急激に変化する社会情勢の中で、鹿野地域に生きる人・訪れる人との交流を通して豊かなまちづくりを推進している。

農業については稲作が中心であるが、転作田で大豆、そば等の生産を行っている。近年は生姜、はすといった地域特産品育成の動きが出てきており、併せてそば半生麺、生姜パウダー、はす茶などの商品開発にも取り組んでいる。

(2) 農地利用等の現状 (H22)

- ①農地面積 355ha(水田：335ha、畑：14ha)
- ②作付状況 水稲：243ha、畑及び転作田：花、そば、はす、飼料稲他
- ③耕作放棄地面積 16.28ha

(3) 担い手の状況

- ①水田の経営面積は 1 戸あたり 0.5～1.0ha 程度が中心、2ha 以上の大規模農家は 37 戸
- ②経営耕地面積規模別農家数（出典：2010 農林業センサス）

	～0.5ha	0.5ha～ 1.0ha	1.0ha～ 1.5ha	1.5ha～ 2.0ha	2.0ha～ 3.0ha	3.0ha以上	合計
農家数（戸）	56	114	72	22	21	16	301

(4) 認定農業者の状況

①水稲経営中心：6名、野菜ハウス中心：1名、花ハウス中心：1名、畜産：1名

②経営の内訳（農業経営改善計画による）

（単位：a）

	水稲	野菜	そば	生姜	花	花壇苗	大豆	酪農 (自給飼料)	作業受託
A	112	56	0	0	0	0	0	0	0
B	560	0	100	3	0	0	0	0	563
C	1,150	0	370	0	0	0	200	0	0
D	0	0	0	0	0	165	0	0	0
E	154	0	0	0	0	0	47	0	120
F	280	20	0	0	0	0	60	0	24
G	0	0	0	0	101	0	0	0	0
H	0	0	0	0	0	0	0	120頭 (10ha)	0
I	30		130	0	0	0	30	0	571
合計	2,616	76	600	3	101	165	337	120頭 (10ha)	1,278

(5) 地域特産品育成の動き

①地域特産品であるそばの再興、生姜、獣肉等について、新たな地域特産品として育成する動きが出てきている

(6) 各生産組合等の概要

生産組織の名称	戸数等	面積等	備考
㈱ふるさと鹿野	社員 35 名	経営面積 5.2ha 作業受託 面積 27.3ha	<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿野そば道場の運営：そば打ち体験、そばにちなんだ加工品（そば焼酎、そば茶、かりんぼう等）販売</li> <li>直売所鹿野おもしろ市場の運営：地域の農産物直売、また、域外にも多様な販売チャンネルを有している</li> <li>鹿野ふるさと加工所の運営：生姜やはすパウダー等の加工</li> <li>地域の荒廃農地保全のため、耕起・刈取り等の農作業受託</li> <li>そば、生姜、はす、地鶏の生産</li> </ul>
生姜生産組合	8 戸	90a	<ul style="list-style-type: none"> <li>江戸時代初期の鹿野城主亀井茲矩が朱印船貿易により東南アジアから生姜を輸入、栽培したことが起源、栽培を開始平成 24 年に「茲矩生姜」として商標登録済</li> <li>主な構成メンバーはおもしろ市出荷組織の構成員</li> <li>親生姜の一部をパウダー加工（用途：生姜サイダー、煎餅、クッキー、ジェラート等）して販売</li> </ul>
そば生産組合	70 戸	30ha	<ul style="list-style-type: none"> <li>そば道場（㈱ふるさと鹿野運営）が全量購入</li> <li>刈取、乾燥調製は㈱ふるさと鹿野が受託</li> </ul>
シシボタンの会	26 名	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>シシボタンの会が解体処理、因州しし肉として販売</li> <li>獣肉（猪、鹿）の有効利用のため、県東部の狩猟者、食肉処理事業者、販売業者、行政等で構成する、いなばのジビエ連絡協議会が H24.5 に設置されている</li> </ul>

#### 4 対象地区の課題

##### (1) 担い手・新規就農者の確保

①高齢化が進み、耕作できなくなる農業者が年々増加してきている。

●平成22年度は60歳以上の農業者が約62%、70歳以上が約33%と高齢化が進んでいる。

年齢別経営者数

年度	60歳未満	60歳以上70歳未満	70歳以上	合計
H17	155人 (43.7%)	94人 (26.6%)	105人 (29.7%)	314人
H22	114人 (38.2%)	87人 (29.2%)	97人 (32.6%)	298人

●販売農家経営体数は5年間で15.9%減少 H17→H22 (354経営体→298経営体)

●同居後継者のいる世帯は5年間で22.6%減少 H17→H22 (190戸→147戸)

②新たな農業への参入者が少ない。

●新規就農者数 過去5年：1戸 (H20) 苺栽培

●企業農業参入 過去5年：1件 (H19) 現在廃業

③新規就農者の受入体制が不十分

●新規就農者の確保、農業開始に向けた農地・住宅等の受入体制が整っていない。

●水稻中心の農業経営となっており、農業所得が少ない。

④認定農業者が9名と少ない。また、水稻中心の経営が多く、所得が伸び悩んでいる。

##### (2) 農地利用の効率化・維持管理

①耕作放棄地が解消できない

●平成22年度の耕作放棄地面積は16.3haで、山間部の耕作放棄地の受け手がなく、解消できない状況。※耕作放棄地面積 H17→H22 (17ha→16.28ha)

②農地を維持管理する集落営農組織の育成が進んでいない

●全45集落あるなかで、法人化されたものとして集落営農組織：1集落、作業受託組織：2集落 (組織設立検討中：2集落) という状況。

##### (3) 核となる品目の生産振興

①地域特産品の育成に係る課題

●水稻栽培が中心で土地生産性が低く、販売金額100万円未満の経営体が多くを占めており、所得向上につながる作物が必要である。

年度	100万円未満	100万円以上 300万円未満	300万円以上 1,000万円未満	1,000万円以上	合計
H17	282 (79.7%)	59 (16.7%)	9 (2.5%)	4 (1.1%)	354
H22	249 (83.6%)	34 (11.4%)	12 (4.0%)	3 (1.0%)	298

●そばが産地化されているがそのほかに核となるものがない。

●加工販売など農業生産者の収益向上の取組が不十分。

●地域農業振興の役割を担っている俣ふるさと鹿野の加工及び販売チャンネルの活用が不十分。

②地域特産品育成に係る個別の課題

品目	課題
生姜	<p>(生産)</p> <p>①種生姜が高価なため、生産の拡大ができず、新規参入者が増えない</p> <p>②他産地と比較して単位面積当たりの収量が低い</p> <p>(加工)</p> <p>①加工品の生姜パウダーは1生産者の取り組みで、需要に対応できていない</p> <p>(販売)</p> <p>①保管施設がないため、周年出荷ができない</p> <p>②販路が限られ販売単価が低い</p> <p>③品種の統一が図れていない</p>
そば	<p>(生産)</p> <p>①排水等の栽培技術が徹底されていないため、単位面積当たりの収量が低い</p> <p>②現栽培品種の信濃1号は倒伏しやすく、収量が不安定</p> <p>③コンバイン及び乾燥機が不足しているため、適期刈取りができていない</p> <p>(加工)</p> <p>①乾麺、半生麺、そば粉等の加工品用玄そばが不足している</p> <p>(販売)</p> <p>①俵ふるさと鹿野が全量購入しているが、数量が不足している</p>
獣肉	<p>①従来 of 獣肉イメージ(匂い・高価格)により、一般消費者に受入られていない</p> <p>②確立された販売先は少数である</p> <p>③地元において獣肉料理を味わえる店舗や獣肉に親しむ機会がない</p>

5 プランの概要

上記の課題を解決するため、地域農業の振興という公的な目的を持った俵ふるさと鹿野に、加工施設の有効活用による加工品製造と多様なチャンネルを活用した販売を担ってもらい、有利販売につなげ、農家の所得向上、核となる品目の生産拡大につなげる仕組みをつくる。

併せて、農業実践の場として就農希望者の受け皿的役割を担ってもらい、新規就農者・担い手の確保を目指す。

また、地域の農業生産法人、集落営農組織及び農業者が農作業、加工等の一部を担い、地域全体が連携、協力しながら農産物の収量向上、販売強化や農地の保全、有効活用を図る。

(1) 担い手確保・育成、新規農業従事者の確保

- ①新規就農者の確保、就農及び就農後の経営安定への支援
- ②担い手の経営安定、確保への支援

(2) 農地利用の効率化・維持管理

- ①耕作放棄地の解消
- ②積極的な農地の利用調整による担い手への農地集積
- ③集落営農組織の育成

(3) 核となる品目の生産振興

このプランでは、生姜、そば、獣肉を核として振興していく。

品目	課題の解消
生姜	(生産) ①種生姜の購入経費の一部助成と生産拡大 ②収量向上対策の実施 (加工) ①パウダー量産に向けた体制整備 (販売) ①周年販売や種生姜保管に向けた既貯蔵穴の有効活用及び新たな貯蔵穴の整備、保管庫の整備 ②スーパー等量販店への周年販売促進 ③生産品種の統一
そば	(生産) ①栽培技術の徹底と集落営農組織と連携した収量向上を図るための排水対策の実施 ②倒伏しにくく安定収量の見込める新品種の試験栽培 ③集落営農組織と連携した適期刈取りの徹底と乾燥体制の整備 ④生産面積の拡大と新品種の導入、栽培技術の徹底による安定数量の確保 (加工) ①高付加価値加工品の開発・販売 (販売) ①こだわりの国産そばとしての販路開拓
獣肉	① シンボタンの会の組織強化による捕獲、獣肉処理の充実 ② イベント、試食会、飲食店への働きかけ等による販路開拓、消費拡大

～「農業者」と「(株)ふるさと鹿野」などとの生産組織の連携によるサイクルの構築～

核となる品目の生産→加工など高付加価値化による有利販売・通年販売体制の確立

→多様な販売チャンネルによる販売力強化

→一般農家の収益向上へ

→核となる品目の生産拡大

→自他共に認めるブランド力をつける

(株)ふるさと鹿野の概要

- 前身は財団法人鹿野ふるさと振興公社で、旧鹿野町の農地保全を主たる目的として発足
- 市町村合併後における鹿野地区のまちづくりを継承して、利益の追求以外に「地域産業の活性化、まちづくりの推進等」を掲げ、まちづくりにより培われた町有施設などの管理運営を行う公的目的を持った民間組織として、平成16年10月に設立
- 地域で最大級の農地、農作業受託の受け手となっている。経営面積：5.2ha、作業受託面積：27.3ha

## 6 プランの具体的内容

### (1) 担い手・新規就農者の確保に関する取組

具体的な取組計画		
<p>①新規就農者の確保、就農及び就農後の経営安定への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 県立農業大学校や県立倉吉農業高校に協力要請及び卒業生・農業短期研修修了者の受入</li> <li>● 東京、大阪等で開催される「新農業人フェア」の活用</li> <li>● 農地、住宅の確保、機械、施設等整備への支援</li> <li>● 新規就農者の生産物を、(株)ふるさと鹿野が経営する農産物直売所「鹿野おもしろ市場」をはじめ、保有する多様な販売チャンネルを活用して販売する体制整備 (現状として「鹿野おもしろ市場」内での野菜等需要量に対し、供給量が不足している状況にあり、伸びしろが見込める)</li> <li>● (株)ふるさと鹿野が新規就農希望者を受け入れ、農業実践を積む場を提供し、農業者としての自立促進(希望があれば新規就農として独立するシステムを構築)</li> <li>● 先進農家、普及員による営農指導</li> </ul> <p>②担い手の経営安定、確保への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 認定農業者、大規模経営農家等の経営規模拡大</li> <li>● 認定農業者及び集落営農組織の育成、確保</li> <li>● 担い手農業所得を確保するため、核となる品目の加工、販売体制を強化</li> </ul>		
目 標 項 目	目 標 数 値	
● 新規就農者の確保 0名→2名	現 状	目標年度
● 法人への新規農業従事者の確保：0名→5名	平成 24 年度	平成 29 年度
● 認定農業者の確保 9名 → 11名		

### (2) 農地利用の効率化・維持管理に関する取組

具体的な取組計画		
<p>①耕作放棄地の解消</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 認定農業者、大規模経営農家等の担い手が、経営ができなくなった農地、耕作放棄地の受け皿となる取組支援</li> <li>● 山間部の農地で収益が上がる作目の選定(はす、ノイバラ等)と推進</li> </ul> <p>②積極的な農地の利用調整による担い手への農地集積</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 農地利用集積円滑化団体(市ふるさと農業公社、JA鳥取いなば)との連携を徹底し、担い手への農地の面的集積の促進</li> <li>● 農地所有者と耕作者の協働による農業施設の管理</li> </ul> <p>③集落営農組織の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 農地を集落で守る取組の推進</li> <li>● 山間集落を中心として受け皿となる集落営農組織を育成</li> <li>● 市、県が主体となった、集落ニーズの把握、支援制度の周知</li> </ul>		
目 標 項 目	目 標 数 値	
● 耕作放棄地の解消 現状 16.28ha 目標 3.0ha 解消	現 状	目標年度
● 集落営農組織の育成 作業受託組織：2→4集落	平成 24 年度	平成 29 年度

(3) 核となる品目の生産振興に関する取組

具体的な取組み計画

【共通】

①生産面積の拡大・生産者の確保による産地化

- 転作田を中心とした生姜、そばの栽培による産地化推進
- 山間地域の耕作放棄地等を中心としたはす、ノイバラ栽培等、農地の有効活用とともに、新たな作物導入の選定・推進

②所得向上による農家の経営安定を図るための対策強化

- 収量向上対策、栽培技術向上対策、周年出荷対策、販売促進対策等により安定収入につなげる

【各品目の個別の取組】

①生姜の生産振興（目的：転作田・耕作放棄地の有効活用、地域特産品化）

（生産）

ア 種生姜の購入経費の一部助成と生産拡大

- 鳥取県、鳥取市の補助事業を活用し、種生姜の購入経費の一部助成を行うとともに、将来、種生姜が安価で供給できるよう採種圃を設置する
- H24 年度設立の生姜生産組合を核とし、町内全域の転作田や耕作放棄地を中心に生産拡大と新規生産者の増加を図る
- 新規生産者については、公募により、概ね年間10者程度募集し、1者の初年作付面積3a程度の作付により、おもしろ市場会員、既生姜生産組合員を通して生産拡大を呼びかけるとともに、広報誌等を活用し周知を図る

イ 収量向上対策の実施

- 収量向上対策として、先進栽培農家の指導、営農指導員による年間指導、講習会を実施する

（加工）

ア パウダー量産に向けた体制整備

- (株)ふるさと鹿野等が所有する既存施設を有効活用し量産体制を図る
- 鳥取市西商工会青年部や明治大学と連携しながら生姜パウダーを活用した新製品開発に取り組む

（販売）

ア 周年販売や種生姜生産の保管に向けた保管庫の整備

- 種生姜の保管対策、周年出荷対策として、瑞穂、日光地区等の先進地に存在する貯蔵穴の借用や、貯蔵穴の新規掘削に取り組む。また、生産量の増加状況を見極めながらエアコン付40フィートコンテナ（野菜輸送用）を整備する

イ スーパー等量販店への販売促進

- (株)ふるさと鹿野の販路を活用したスーパーへの年間出荷を目指す
- 生産者自身が、おもしろ市やJAの直売所などで消費者と触れ合いながら独自販売することにより「売れる商品づくり」を工夫する
- インターネット通販では、生姜パウダーに加え、新生姜の販売に取り組む

ウ 生産品種の統一

- 導入する品種は、香りと風味が際立つ「瑞穂産のおたふく」とし、こだわりのある生姜として販売する

②鹿野そばの再興（目的：転作田の有効活用、地域特産品の再興）

（生産）

ア 栽培技術の徹底と集落営農組織と連携した収量向上を図るための排水対策の実施

- 収量向上対策として、排水対策の徹底とその一環であるオーガの導入・活用を行う
- 鳥取農業改良普及所と連携し、栽培技術の向上に向けた普及員による巡回指導を行う

イ 耐倒伏性が高く安定収量の見込める新品種の試験栽培

- 耐倒伏性が高く、多収量品種である「タチアカネ」「とよむすめ」の試験栽培実施による品種選考と普及

ウ 集落営農組織と連携した適期刈取りの徹底と乾燥体制の整備

- 適期刈取りに向けた、作付ほ場マップの作成、作付ほ場の巡回、収穫スケジュール作成、刈り取り・乾燥作業委託が可能な〔農事組合法人 小別所生産組合〕への作業委託、団地化など作付ほ場の集約依頼、地区ごと（鹿野・勝谷・小鷲河）の播種時期の協力依頼等を行う。また、法人の作業受託に必要な機材等の整備を行う
- 乾燥作業対策として〔農事組合法人 小別所生産組合〕や集落営農組織である〔水谷水田利用組合〕への乾燥作業委託と乾燥作業機器の整備

エ 栽培面積の拡大等

- 特産品育成してきたが、近年栽培面積、生産量が減少してきたことから、そば道場の必要最低量 11 t が確保できない状況であり、地域特産品としての再興を図るため、作付面積 50ha を目標にそば栽培の推進する（50ha で 20 t の確保可）
- そば栽培農家の拡大方策として、鳥取市農業再生協議会鹿野地域部会、鹿野そば生産組合総会及び広報誌等を活用した協力要請と栽培基準の徹底
- 補助金については「耕作放棄地再生利用緊急対策事業」の活用

（加工）

ア 高付加価値加工品の開発・販売

- そば麴等高付加価値製品の開発・販売の取組

イ 安定した品質の保持

- そば道場での玄そば保管と〔農事組合法人 小別所生産組合〕での一時的な保管対応

（販売）

ア こだわりの国産そばとしての販路開拓

- 買取価格の値上げに向けた取り組みとして、特に関東方面の国産そばにこだわりのある販路を開拓する。

③獣肉（イノシシ）の確保、販売強化（目的：地域おこし・新たな特産品開発）

ア シシボタンの会の組織強化による捕獲、獣肉処理の充実

- 獣肉有効活用の先進的組織であるシシボタンの会の組織の強化については、いなばジビエ連絡協議会との連携や狩猟免許の取得奨励・推進、解体技術者の育成、ハンター以外の会員確保等に取り組む

- 解体処理施設の衛生管理マニュアルを作成し、徹底した衛生管理に努める

イ イベント、試食会、飲食店への働きかけ等による販路開拓、消費拡大



- 消費拡大対策として、イベントでは人気がある一方、イノシシと聞いたら嫌がる人がいるという現状があるため、確かな技術で衛生的に処理された「因州しし肉」は、美味しく且つ健康食材であることを、イベントやメディア、参加者限定の試食会等でのPRしていく。試食会は「オシャレな出会い」を演出し、イメージアップ図り、(株)ふるさと鹿野との連携により特産品のそば、生姜とのコラボ商品の開発も検討する。
- 鹿野地域で特別なジビエ料理（因州シシ肉）を味わえる飲食店の確保
- すでに開発されているシシ肉コロケ、イノシシ重などの取扱店の開拓
- 価格は、イノシシの処理、保管、販売経費、肉の希少価値などを勘案し、現在の価格を維持し、取引部位、取引頻度などにより交渉し、基本価格と交渉価格の棲み分けを行う

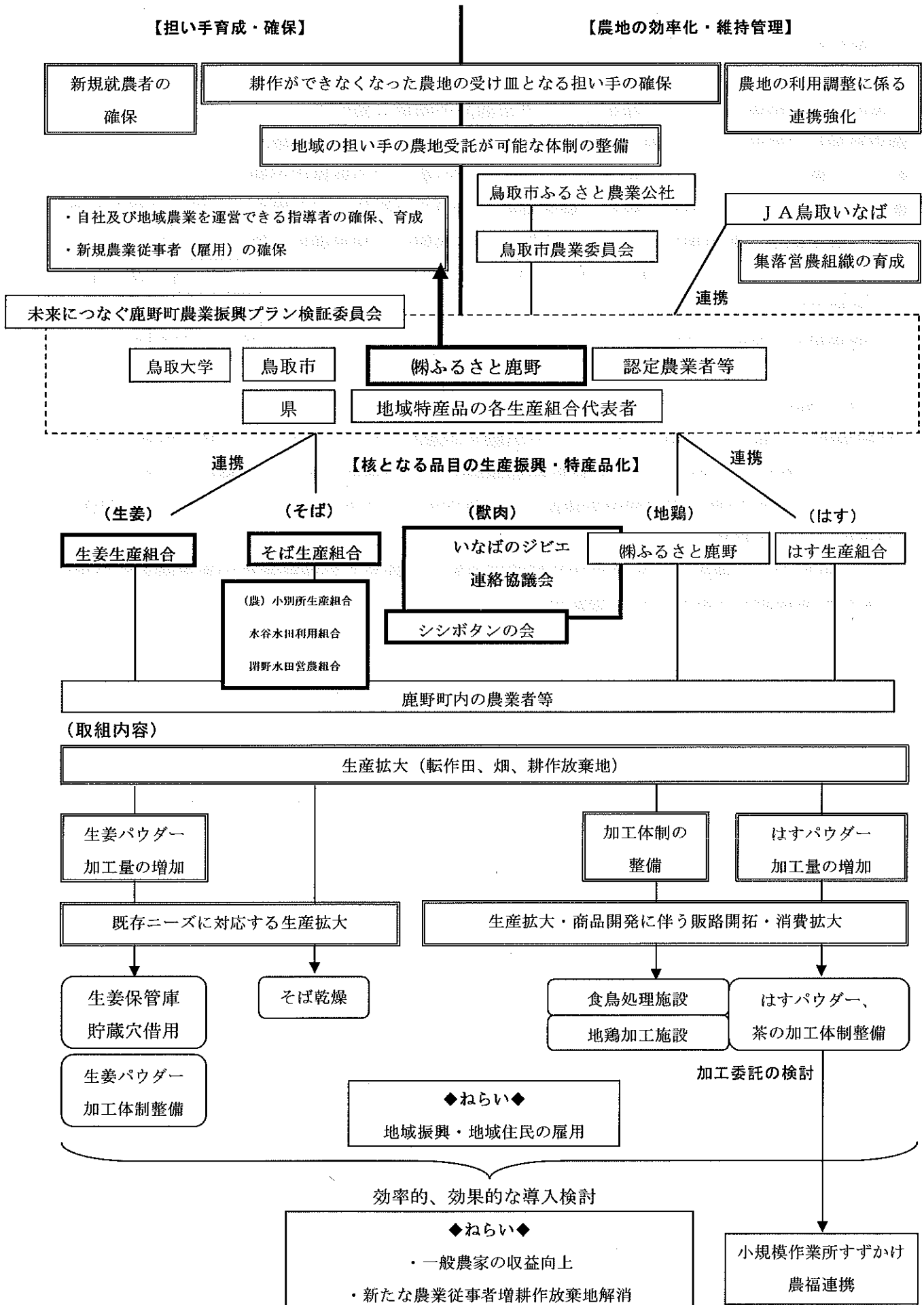
目 標 項 目		目 標 数 値	
●生姜	栽培面積：90a →3h a	現 状	目標年度
●そば	栽培面積：30ha →50ha	平成 24 年度	平成 29 年度

#### (4) その他の取組

計画期間中における、年度ごとのプランの動きを検証するため、本プラン策定委員会の委員を基本として〔仮称〕「未来につなぐ鹿野町農業振興プラン検証委員会」を組織し、毎年10月～11月を目途に当年の事業実施状況を検証し、実施方法などの見直しを行い、本プランの所期の目的を達成するよう務める。

また、鳥取大学と連携し「鳥取大学地域貢献事業」を活用した鹿野地域の農業調査及び現状分析、集落営農組織等の経営分析を実施する。

## 7 プランの実施体制



## 8 支援事業等の内容

### (1) 核となる品目の生産振興・特産品化

#### ①そば

区分	事業内容	事業費(千円)	実施年度	実施主体
推進事業	新品種として「とよむすめ」「タチアカネ」の種子を購入し、現在、作付している「信濃1号」とともに試験栽培を実施し、耐倒伏性や収量の比較を行い、導入検討を行う。	5	H25	(株)ふるさと鹿野
整備事業	移送用トレーラー (汎用コンバイン等移動用)	1,486	H25	小別所生産組合
〃	籾粗選機	369	〃	〃
〃	選別機の導入	961	〃	〃
〃	計量機の導入	366	〃	〃
〃	バキュームハンド (作業場内のそば袋運搬)	2,363	〃	〃
〃	機械格納庫の整備	10,700	〃	〃
〃	汎用乾燥機の導入	2,715	H27	〃
〃	排水対策用溝堀機(オーガ)の導入	723	H25	閉野水田営農組合

#### ②生姜

区分	事業内容	事業費(千円)	実施年度	実施主体
推進事業	種生姜購入に対する助成	6,000	H25~29	生姜生産組合
整備事業	保管施設(40フィートコンテナ)	9,660	H27~29	(株)ふるさと鹿野

#### ③プラン検証委員会

区分	事業内容	事業費(千円)	実施年度	実施主体
推進事業	プラン検証委員会委員報償	1,000	H25~29	鳥取市
	市場調査委託費	450	H26	

支援事業費の合計額 36,798円

### (2) その他の事業【独自財源によるもの】

#### ①そば

区分	事業内容	実施年度	実施主体
ソフト事業	「鹿野わったいな祭」での鹿野そばの販売及び「そばの早食い選手権」の開催	H25~29	(株)ふるさと鹿野 鹿野ええもん市 実行委員会
〃	食のみやこ鳥取フェスタでの鹿野そばの販売	H25~29	(株)ふるさと鹿野
〃	インターネットショップ「とっとり市」における乾麺、そば粉の販売	H25~29	(株)ふるさと鹿野

ソフト	関西・関東地方のそば屋に対するそば粉の供給ルート開拓	H25～29	㈱ふるさと鹿野
〃	オーガによる排水対策についての栽培技術実演講習会の開催（7月下旬～8月上旬）	H25～29	そば生産組合
〃	そば生産組合の開催による全町の作付予定・時期及び講習会の調整（3月）	H25～29	そば生産組合

## ②生姜

区分	事業内容	事業費（千円）	実施年度	実施主体
ソフト事業	市内スーパー等の「地元特産品コーナー」における周年出荷		H25～29	㈱ふるさと鹿野
〃	明治大学、永谷園生姜部と連携した因州しし肉とのコラボ商品開発・販売		H25～29	生姜生産組合 シシボタンの会 鳥取市
〃	B級品・親生姜のパウダー加工販売		H25～29	㈱ふるさと鹿野
〃	生姜うどん販売促進		H25～29	鳥取市西商工会 青年部
〃	町内飲食店に対する生姜メニュー取り入れの推進活動		H25～29	鳥取市
〃	健康食品としての成分分析調査		H25～29	㈱ふるさと鹿野
〃	インターネットショップ「とっとり市」での生姜パウダー販売		H25～29	㈱ふるさと鹿野
〃	鹿野わったいな祭での生姜商品の販売		H25～29	㈱ふるさと鹿野
〃	食のみやこ鳥取フェスタでの生姜の販売		H25～29	㈱ふるさと鹿野

## ③獣肉

区分	事業内容	事業費（千円）	実施年度	実施主体
ソフト事業	鹿野わったいな祭での「因州しし肉」の試食および販売によるPR		H25～29	シシボタンの会 ええもん市実行 委員会
〃	春の鹿野ええもん市での「因州しし肉」の試食および販売によるPR		H25～29	シシボタンの会 ええもん市実行 委員会
〃	食のみやこ鳥取フェスタでの「因州しし肉」の試食および販売によるPR		H25～29	シシボタンの会
〃	インターネットショップ「とっとり市」での精肉ブロックの販売		H25～29	シシボタンの会
〃	鹿野町正月マラソンでの「因州しし汁」の無料配布		H25～29	鳥取市体育協会 鹿野町支部

ソフト	ママチャリレースでの「因州しし汁」の無料配布	H25～29	鳥取市体育協会 鹿野町支部
〃	鹿野往来マラソンでの「因州しし汁」の無料配布	H25～29	鹿野往来マラソン 実行委員会
〃	城山まもりたいイベントでの「因州しし汁」の無料配布	H25～29	城山まもりたい
〃	おふくろの味フェスタで「因州しし肉」を使用した料理の実演販売	H25～29	シシボタンの会 鹿野往来交流館
〃	いなばのジビエ連絡協議会と連携した試食会などの開催	H25～29	シシボタンの会 いなばのジビエ連絡協議会
〃	町内飲食店に対する因州シシ肉メニュー取り入れの推進活動	H25～29	シシボタンの会
〃	イノシシの革の有効活用についての取り組み	H25～29	シシボタンの会 いんしゅう鹿野まちづくり協議会 いなばのジビエ連絡協議会
〃	イノシシの骨の有効活用についての取り組み	H25～29	シシボタンの会 いなばのジビエ連絡協議会

## 9 雇用の計画

目 標 項 目	目 標 数 値	
	現 状 平成 24 年度	目 標 年 度 平成 29 年度
法人への新規農業従事者の確保・・現状：0名→目標：5名		

## 10 対象地区の目指すべき姿

～「もうかる農業」と「元気で魅力ある農村」を目指して～

本市には長い歴史の中で先人たちの知恵と技術によって築かれてきた「地域を潤す農業用水」や「食料を生産する農地」更には、「豊かな農村環境」など、大切に守っていかねばならない資源があります。こうした市民共有の財産と言える資源を次の世代によりよい形で残し、繋げていくことは、我々、今の世代に課せられた重要な役割であると考えています。

そこで、農地保全においては、こうした資源の持っている様々な機能をさらに向上させ、その効果が将来に渡って十分に発揮されることにより、本市の農業振興が図られるよう、「もうかる農業の実現」と「元気で魅力ある農村」を目指します。

### ①先人の偉業を後世へ継承

亀井茲矩公は、用水路を開き干拓を行うなど、領内の農地を増やすのに尽力する一方、朱印船に

よる海外貿易を行い、その取引品を国内で取引した財力によって城下町を整備するなど「もうけの達人」であり、「地域経営の達人」であった。

このような亀井公の治績に思いを馳せながら、今回の農業振興プランでは、亀井公が朱印船貿易により輸入したことが起源といわれる「生姜」に着目し、住民と行政が協働しながら生産振興・販売することで生産者の所得の向上を図る。

また、城下町にふさわしい特産品として、平成7年から栽培してきた「鹿野そば」は、「農業振興」をはじめ「観光振興」、「景観形成」、「雇用創出」にも貢献してきた。このプラン実践を通じて、地域住民とともに知恵を絞り、創意工夫によって「鹿野そば」を再び振興し、生産者の収入アップに繋げたい。

## ②もうかる農業の実現

「もうかる農業」とは、将来の本市農業を担う農業者が意欲と誇りを持って農業を生業とし、経済的に自立するとともに、その後持続可能な農業経営を展開していくことだと考えます。このような農業が実現されている農村においては、担い手の確保が可能となるとともに、集落営農組織の経営発展等による農地の保全や集落機能の活性化も図ることができ、更に農業生産の増大によりあらゆる農産物のブランドの確立も図ることができるものと考えます。

今後の農地保全においては、これまで以上に高付加価値化やブランド化、生物多様性の保全のための基盤整備に取組、農家所得の増加や農村環境の改善を図ることで「もうかる農業」を推進していきます。

## ③元気で魅力ある農村

農村には、農業生産活動を通じて形成された農地や農業用水等の農業資源、美しい景観、伝統文化等、地域に根ざした様々な地域資源があります。

一方で、過疎化・高齢化の進行等の問題を抱えており、集落の維持が困難となってきた地域もあることから、今後は、農家のみならず、農家以外の地域住民やNPO法人、都市部の住民等の多様な活動組織が参加することにより、こうした地域資源を維持保全していくことが必要です。

こうした取り組みにより、農村が本来持っている魅力を更に引き出すことによって、他地域の住民が憧れをもって訪れ、あるいは移住し、また、地元地域住民が誇りをもって居住できる元気で魅力あふれる農村づくりを推進します。

## 11 その他

要約資料（パワーポイントスライド）「未来につなぐ鹿野町農業振興プラン」